第9回・銀座書斎入居ビル・清掃活動リポート

実施日 2019年2月23日(土)

2019年 3月2日(土) 提出
英語道弟子課程弟子 H.K.

第9回 銀座書斎入居ビル・清掃活動

このたびの清掃活動において、行ったこと、気づき、そして、清掃活動関連で得た学びについて、まとめました。

まず始めに、いただいた清掃用の時間枠は、2019年2月23日(土) 9:20 ～ 10:55 AM でした。

清掃対象箇所は、追加分のため、入口と1～3階の階段です。

持参した物は、以下の通りです。

1. 水スプレー
2. ハブラシ
3. 水で絞ったタオル4本
4. ゴミ袋
5. 手袋

持ち物はかなり少なくなりました。

最近、汚れが落としやすいので手離せなくなったハブラシを使用しています。

T.A.さんのおすすめのナイロンタワシとも通じるところがあると思います。

〈清掃内容と清掃活動からの気づき〉

私は、ほかの弟子の皆さんによる「清掃活動リポート」を読ませていただくことをとても楽しみにしております。

すべてのリポートは専用ファイルに綴じてあります。清掃の前日は全ページを再精読し、当日を迎えました。

皆さんの様々なアイデアをどんどん取り入れ、活用させていただいております。公開・共有してくださり、ありがとうございます。

皆さんの気づきから、大変、刺激を受けております。

2月上旬に銀座書斎に来たときのことですが、1〜3階と4階の汚れが逆点したことに気が付きました。5階は非常にきれいですが、
総合して、階段はますますきれいになっており、毎回の当番の方、
そして、日々、弟子の皆さんが心を込めて、力を合わせて行った証だと感じられ、うれしかったです。

今回の当番では、これまでの活動の御陰によって、もう、すでにきれいな階段の清掃でしたので、1時間程度で終了するつもりでスタート致しました。

窓を開けて、4階トイレ前から掃き始め、下の階へ降りていきました。

今回は拭きそうじに力を入れたかった為、徹底的に拭けるよう、徹底的にほうきで掃くことにしました。30分以上はかかりました。

徹底的にほうきで掃いたことは、のちほどの拭きそうじの際、
大変役に立ちました。普段は拭くだけでした。が、ゴミが落ちていないといえど、ほうきとチリトリの持つ威力（大げさかもしれないですが、それ位）を感じました。

実は、「ほうきとチリトリ」は、拭きそうじよりも非常に重要な道具である、と気づいたことは、この日、最初の大きな発見でした。

掃きそうじを開始後、間もなく心底驚いたことは、
「階段が綺麗で掃除するところがないこと」と「窓の桟の綺麗さ」です。まさに弟子の皆さん、おひとりおひとりの活動の賜物です。
これほどきれいな窓の桟は、そうそう無いと思います。

朝でしたので、下の階のほうは人の行き来が多くありました。
数名の方から「いつもすみません」とお声をかけていただいたり、頭を下げられたりしました。私は「こちらこそお邪魔してましてすみません」と言いましたが、きれいな階段を見ていますと「私が御礼を言わなくては」と思いました。

先日、私は、下の階の会社の従業員の方にお話をし、汚れに気づいたら拭いておいていただけると助かるのですが…という主旨をお伝えし、
その方は対応しますと言ってくださいました。後日、T.A.さんのリポートによると、お話した2日後に、本当に対応された、ということがわかりました。

2日後とは、迅速な対応をされたのです。

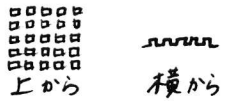
普段、周囲にどれだけ迅速な行動をする人がいるか？
私が逆の立場なら、素直にきくのか？
と自問しました。

掃きそうじの後、入口の扉を拭きますと、時刻はすでに開始後から40分が経過していました。

丁度その頃、1階入口付近は人の行き来が無くなり静まり返りましたので、人気の無い内に「今日のメインイベント」に即座に取り掛かりました。

今回の清掃では絶対にこの場所をきれいにしようと決めて来ていました。
そこは、1階の入口の床です。すべての人が目にする所です。
時間をかけてしっかりと清掃したかった所で、ハブラシならきれいに落とせると思っていました。

床をよく見ますと、階段と同じ素材が使用されています。
K.H.さんがわかりやすく描かれていましたように



拡大するとこの様です。

このような設計・素材が使用されている建物が、周囲に結構あるものだ、と気づいたのは、弟子の清掃活動が始まってから、でした。
なぜ凸凹か。すべり止めだ。とその役割に気づくと、凸凹は実は人のことを思って出来た、採用されたものであり、親しみとありがたい気持ちが湧いてきます。

1階入口の床のうれに水スプレーをかけ、ハブラシで落とすと、実によく落ちるのです。本当は水をたくさんまいて、デッキブラシで何度も磨きたいです。
ハブラシはよく落ちすぎて、周囲の目立たなかった汚れがかえって目立ち、ムラを作り、汚い印象を作ってしまうのですが…とにかくよく落ちますので、あとは小まめな清掃で、ムラは解消されると思います。

まだまだ清掃したい気持ちはありますが30分程で1階入口床を終了しました。

そのあとは、順序が逆ですが、下の階から階段を拭きながら上の階へと昇っていきました。

汚れがありませんので、少々の汚れを見つけたとき、心の中で「あった～！」と喜びました。

「汚れがあってうれしい」とは、嬉しい悲鳴ですね。

4階のトイレ前までとして、最後にきれいな濡れタオルで手とほうきとチリトリを拭いて清めて、ほうきとチリトリは仕舞われていた袋に戻し、清掃を終了致しました。

10:40に終了しましたが、当初賦与いただいた終了時刻までの間、先生から耳学問を頂戴致しました。

「心を込めて清掃していただき、ありがとうございました。」
「長い時間、お疲れ様でした。」という、労いのお言葉をいただきました。
が、私こそが自分の想像を越える学びを清掃からいただいており、ありがとうございます。

銀座書斎を退室し、1階の扉から外に出て、空気を吸ったとき、私は自分の中に確かに感じたものがありました。

それは、「気分がスーっとした！」ことでも、「気持ちが晴れ晴れとした」ことでも、「すがすがしい気持ちになった」ことでもありません。

確かに自分が、確かに浄化された、という実感でした。

清掃しに来たのに…またも想像しえないものを頂いた、と思いました。

〈清掃活動を振り返って〉

一時期、このようなことを考えたことがありました。
「汚れが増えなかったら、私(たち)はどのような清掃を行っていただろうか。」

きれいな所を清掃していれば、平和だったのか。
でもそれは先生が私たち弟子に気付かせたかったことなのか。

結局、汚れは自分を磨いてくれる材料になりました。
そして、清掃に夢中にさせてくれるものにもなりました。

以前に提出済のリポートにも同様の事を書きましたように、
私は、以前は、清掃については どちらかと言うと「辛い道」だと
思っていました。

180度 違いました。

今日も清掃に夢中になり、楽しみました。
汚れを発見して嬉しく思ったことは 不思議な気持ちでしたが、
純粋に「楽しかった！」と感じました。今日のメインイベントの清掃に
力を注げたことからも楽しさは さらに増しました。

これまでを振り返ると … 私が一番、皆さんに感化されていたと
思います。

汚れができて時間の経過とともにこびりつき、そのような汚れが
増えていってしまったことで、それまでの印象がガラリと変わってしまって
いた時、私は汚れに対する感じ方が鈍かったです。
そんな時、M.U.さんが追加の清掃活動を申し出たと知りました。

M.U.さんがどのような事を感じていたのだろうと考えると、
金良座書斎に対する思い入れ、熱い思いが見えてきて、
私はM.U.さんのお考えに感化を受けました。
「M.U.さんがお一人で行うのなら、二人で行えばもっと捗る！
私はM.U.さんに協力したい。」と思いました。

T.A.さんは毎回の稽古前に20分くらい清掃すると先生に申し出たと
聞きました。「なぜ稽古前なのか。… ああ！そうだ！」と分かり、
その素晴らしい案からも感化されました。

K.H.さんは除菌に配慮されたと聞き、私の中のどこにも無いお考えで
でした。驚きました。

そして当時、受講生S.M.さんの「自発的な清掃活動参加の意思表明」
を聞き、視点の違いから姿勢・意識を学ばされました。

みなさんのお考えと行動から非常に刺激的な良い刺激を
いただいて、私の清掃活動は、「楽しいもの」「楽しみなこと」に
なりました。

毎回、「もっとやりたい」と思いながら、帰路につきます。

清掃活動は、弟子が第7等級から第6等級に進むためには、真人間になるためには必要不可欠だということが、しっかりと分かってきました。

埃まみれになって、着ている物も顔も手も汚れて、他者の幸福の一助となることだけのために、汗を流し、涙を流す必要がどうしてもある。人はきれいな所にいたいし、きれいな所だけを勉強しようとするけど、その下ではエレガンスは構築されない。本当の人になれない。

清掃の直前にご指導いただいたことですが、実際には、銀座書斎の扉を初めてノックして入室以来、ずっと長い間ご指導し続けていただいたことです。

10年前にいただいたご指導のかけらがやっと「ああ本当にそうだ」と実感とともに少しずつわかってきました…やっとです。
エレガンスの基盤がどこにあるのか、どうしたらできるのか、どうしたら本当の人になれるのか、本物になれるのか、の道がやっと少しずつ気づき始めてきました。

〈最後に…
清掃活動関連として、先日の「銀座書斎エッセー」からの気づき・学び〉

生井利幸先生の公式サイトにおいて、2019年2月24日付銀座書斎エッセー「銀座書斎と松ケ岡文庫」に、前日の清掃中に撮影いただきました写真を載せていただきました。

写真を撮る・掲載するというのは、ただでさえ労力のいるもので、必要性の有無を考えると無いはずです…のに、そのようにしてくださったことからたくさんの深い意味と思いが込められていることを感じました。

まずは、弟子が確かに活動したという証。
そして、私自身（H.K.という名の者）が活動したという確かな形跡。
弟子やそのほかの方に深い思案をしてほしいというメッセージ。
それから、清掃を行う弟子たちに対する、生井利幸先生からの敬意が払われていることを表されたということ。

「松ケ岡文庫へ向かう長い階段の一段一段」と「弟子たちによる、地道な清掃活動」を並べてくださいました。

一見すると、前日の活動だから、"延伸"として載せられたのかなと思いますが、実は、全然そうではありません。深い意味と価値がそこにありました。

松ケ岡文庫へ向かう長い階段の「一段」は、身近な実例をあげると、「弟子の清掃活動」のこと。

自分自身が埃をかぶって汚れようとも、やがて清掃によってきれいになっても、「階段の一段」を、心を込めて清掃を行い続け、休まずに実行していくことは、松ケ岡文庫へ向かう一段と等しい価値がある、と先生は伝えているのではと思いました。

そして、こつこつと正しい行い、清らかな行動を行い続けることは英語道弟子課程・第一稽古場である銀座書斎のさらに奥にある、「奥の聖域」に本当の意味で辿り着く一歩であるのだと思いました。

英知への到達は遥か先で遠い遠い道のりであるということも同エッセーから感じました。だから丘の上、山の上に、神聖なもの、神聖なところがあるのだ、と思いました。

Cleanliness is next to godliness. と心の中で思ってから清掃活動の写真を思い出すと、ものすごい機会を賦与されていると思います。清掃活動自体が尊い価値のある活動であるのです。だから先生は、行う弟子に敬意を払われているのだ！と感じました。

これで最後ですが、あの写真から私の至らない点が見つかりましたので忘れないように、本リポートに書かせていただきます。

それは、私は「きれいにそうじしている」ということです。汚れても良い格好で行ったのに、自分を汚さないようにして掃除しているのです。これは全然良くありません…自分を隠し良いところだけを出そうとしても結果として悪い所が明るみになっています。「きれいにやろうとする自分」を払拭します。

以上で、リポートを終るいたします。